

## ウイグル文字・モンゴル文字

### ■ウイグル文字資料。

上 kü(名誉ある) bilgä(賢明なる)、左 tängri(天)、下 bu γ u γ (ブクク) ui γ ur(ウイグル)、右 xa γ an(可汗)とある。



西ウイグル国時代(9-13世紀)の銅貨 (古代文字資料館所蔵)

### ■モンゴル文字資料。

qayan-u nereber arugun-u deledkegüüg-sen(カーンの名においてアルグンの打たせたる)とある。



イル・ハン朝(13-14世紀)の銀貨 (古代文字資料館所蔵)

#### ■ウイグル文字・モンゴル文字の書写方向

ウイグル文字（9～14世紀）は、初期のものを除き大部分は縦書きされるという<sup>1</sup>。縦書きであるとしたならば、それは7世紀前半以降、西トルキスタン以来のソグド文字の習慣によったものと考えてよいのであろう。

モンゴル文字（13世紀～今に至る）は、ウイグル文字をやや改良したものであり、全て縦に左から右に向かって書かれる。漢字漢文は縦に右から左に向かって書かれるから、両者の書記の方向は逆となる。

#### ■一部漢字漢文の特異な書写方向

さて、元代の漢字漢文には、驚くべきことに、縦に左から右に向かって書くものが複数ある。これまでに気づいたものを挙げると次のようである<sup>2</sup>。

①ひとつは、『蒙古字韻』（校訂者である朱宗文の序年は1308年）という書。これは漢字の音形を表音文字のパスパ文字でつづり漢字と対照させたものである。韻書のような体裁となっているが、漢字とパスパ文字の対照表とも言うべきものである<sup>3</sup>。写本が天下の孤本として大英図書館に所蔵されているが、清代後期までは元代の刊本があったようである。巻頭に劉更と朱宗文という人物による漢字漢文の序が付されており、その二つの漢文は縦に左から右に向かって書かれている。おそらく元代の刊本でもそのようであったと考えて大過ないであろう。

②いまひとつは皇帝の聖旨を刻した皇慶元年（1312）の碑文である<sup>4</sup>。この碑文は上段と下段に別れる。上段にはパスパ文字で漢語を表記した聖旨があり、縦に左から右に書かれている。下段は同一内要の漢字漢文であり、上段と同様に縦に左から右に書かれている。

これらはパスパ文字の書記方向を通して、間接的にウイグル文字やモンゴル文字の書記方向を受け入れたためである。間接的に受け入れたとは次のようなことである。すなわち、モンゴル人は元（1271～1368年）建国の直前の1269年に、パスパ文字を公布しモンゴル語を表記するようになったわけであるが、それよりも以前よりウイグル文字に発するモンゴル文字で自分達の言葉を書いていた。パスパ文字作製後は文字をパスパ文字に置き換えて文章を書いたため、その結果として、ウイグル文字やモンゴル文字より「縦に左から右に向かって書く」という書記の方向を受け継ぐことになったというわけである。上では規範的でない書記方向の漢字漢文として2種を紹介したわけであるが、あるいは、元というモンゴルの時代は、書記方向に関する規範意識が緩んだ時代であり、このような漢字漢文もそれほど特殊なものではなかった、ということかもしれない。

---

<sup>1</sup> 庄垣内 2001 参照。

<sup>2</sup> 吉池 2007 参照。

<sup>3</sup> この指摘は、中村 1993 に『蒙古字韻』は一東から十五麻にいたる 15 の韻部に分類されており、それまでの伝統的な韻書と大きく異なっている。これは『蒙古字韻』の目的が押韻の規範を示すためというより、当時の国字であるパスパ字の綴りを知らしめることにあったからなのではないかと推測される。」(22頁) とある。

<sup>4</sup> 羅常培・蔡美彪 2004 の 44 頁参照。この碑文は「特贈鄭鼎制誥」と称される。

## ■篆書体

なお、モンゴル文字には篆書体もあり、これも漢字の篆書体に学んだものである。



篆書体蒙古字印（古代文字資料館所蔵）

ここには、sedgil（心） čilen（ままに） čindamani（如意宝珠）-yin（の） tamaγa（印）とある。

この čindamani（如意宝珠）を人名とみて“思いのままに。チンダマニ（人名「如意宝珠」）の印”と読む。印文が篆書体であることは、直接に漢字篆書体、あるいは満洲文字篆書体を介して漢字の影響を受けたものである。興味深いことに、篆書体を用いてモンゴル文字を正方形の四つのブロックにまとめあげている。これは漢字の方形を模したものである<sup>5</sup>。

### 参考文献<発行年順>

中村雅之 1993. 『『蒙古字韻』と『五音集韻』』, 『中国語学』 240号, 21-30頁。

庄垣内正弘 2001. 「ウイグル文字」, 『言語学大辞典 別巻 世界文字辞典』河野六郎・千野栄一・西田龍雄編著, 三省堂, 2001年, 118-121頁。

羅常培・蔡美彪 2004. 『八思巴字與元代漢語 增訂本』, 北京: 中国社会科学出版社. 初版は1959年。

吉池孝一 2007. 「漢字とソグド系文字」, 『KOTONOHA』 第60号, 16-21頁。

吉池孝一 2008. 「篆書体蒙文印章一顆」, 『KOTONOHA』 第66号, 16-19頁。

(文責: 吉池孝一.2010.2.16)

---

<sup>5</sup> 吉池孝一 2008 参照。